会　議　録

会　議　名	第９回野田市生物多様性のだ戦略市民会議
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	（１）第８回市民会議での意見を踏まえた素案の修正等について（公開） （２）第２期戦略（素案）（公開） （３）今後のスケジュールについて（公開）
日　時	令和４年１２月６日（火） 午後２時から午後４時２０分まで
場　所	市役所８階大会議室
出席委員氏名	会　長　長谷川　雅美 委　員　朽津　和幸、新保　國弘、田中　勝美、柄澤　保彦、土屋　守、黒川　茂、香西　陽一郎、鈴木　哲雄、村田　歩、柳澤　朝江、岡田　壽
事　務　局	宇田川　克巳（自然経済推進部長） 池澤　孝之（みどりと水のまちづくり課長） 茂木　嘉則(みどりと水のまちづくり課長補佐) 野島　真紀（みどりと水のまちづくり課自然保護係長） 満田　和総（みどりと水のまちづくり課自然保護係主事）
欠席委員氏名	副会長　茂木　康男 委　員　田中　利勝、矢口　勇二、鈴木　隆博、川﨑　裕幸、
傍　聴　者	１名
議　事	第９回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の会議結果（概要）は次のとおりである。

１　開会
《事務局：池澤課長》
　委員総数17名のうち12名が出席し半数以上が出席しているため、条例の規定に基づき会議が成立する旨を報告。欠席者は茂木康男副会長、田中利勝委員、矢口勇二委員、鈴木隆博委員、川﨑裕幸委員。
　本日の会議は公開であり、１名の傍聴希望があることを報告。長谷川会長より参加委員に了承を頂き、入室を許可した。

２　会長挨拶
　おかげさまで２年以上にわたり「生物多様性のだ戦略」を皆様と共に審議させていただいた。改めてこれまでの御尽力いただいたことについて感謝申し上げる。前回の会議では戦略の方針まで御承認いただいたので、今回の会議では、この戦略に基づいて、野田市が自然保護団体や企業の皆様など様々な方と連携しながら生物多様性に関する事業を、どう進めるかの具体的な行程などについても、資料を御用意いただいているので議論していきたいと思う。
　生物多様性という言葉が難しいということは、度々議論されてきたと思うが、生物多様性国家戦略を日本で策定する時に「Biodiversity」をどう日本語に訳すのかという際に、「生命多様性」が良いという意見もあったと聞いている。最終的には生物多様性という言葉になってはいるが、元々は命の多様性ということが概念として含まれていることを分かっていただけると良いのではないかと思う。

３　議案第１号：第８回市民会議での意見を踏まえた素案の修正等について（資料1）

《事務局：野島係長》
　資料１を使用し、第８回市民会議での意見を踏まえた「戦略（素案）」での修正対応について説明

《委員》
　資料２の３ページにある「生態系サービス」については、文言だけでなく世界総生産の数パーセントに当たるなど、具体的な数字を入れて伝えてほしい。

《事務局：野島係長》
　第１章については、前回の会議で御承認いただいているため大きな変更はできないが、御指摘の内容について、今後、戦略を伝えていく中で検討させていただきたい。

《会長》
　小学校の子供たちに伝えたいという話が前回の会議の際にも出ていたが、今後戦略を普及していくための説明用パワーポイントを作ってもらい、そこに私たちがこんなに生態系サービスに依存しているのだということを、入れるというのも一つのアイデアではないか。

《委員》
　長谷川会長が御挨拶で話されたことは、とても示唆に富んでいる話だと思う。根幹に関わることを分かりやすく伝えることが大切だと思う。いのち（命）という言葉を始めの所に何らかの形で入れられると良いのではないか。いのち（命）というと、人

のことを指すと思いがちだが、ありとあらゆる生物が持ついのち（命）全体の多様性を大事にしよう、などという観点を入れられると良いのではないか。

《事務局：宇田川部長》
第１章の最後の所に命に関する記述をしたり、コラムの中で強調させていただいたりしている。今後も戦略を伝える中で工夫したい。

《委員》
この戦略（素案）は、すごく丁寧に作られていると思う。他の市町村のも読ませていただいているが、できるだけ分かりやすくということをいろいろなところで感じることができて、頑張ってくれたなと思う。

《委員》
将来像の表現については、「…なのだ」ということで、な行が続くことで分かりにくいが、平仮名の上に強調点を付けることで解消できるのではないか。

《委員》
「自然なのだ」より「自然豊かなのだ」が良いのではないか。表示は平仮名の方が皆さん親しみやすくて良いと思う。

《委員》
野田は自然が豊かな所ではないと思う。

《委員》
以前より疑問に思っていたことだが、生態学はどうして人を扱わないのかと聞いたことがある。生物多様性に人は含まないのだろうか。

《会長》
現在は、生態学でも人も含めた自然環境ということに認識が改まってきている。今は、人と自然を対立構造として話をする時代ではなくなっている時代。多様性を尊重するということで、人と他の生きものとを全く区別しない、そうでなければ生きていけない、という発案がBiodiversityになったということだと思う。

《事務局：宇田川部長》
将来像については、コウノトリもすめる自然が「ある」のだという意味で表現を使わせていただいている。

《会長》
「なのだ」という表現がここに掛かっているということを分かっていただけたらと思う。皆さんの御意見で平仮名の方がやわらかくて良いということで、修正いただいた事務局案で良いか。

（異議なし）

議題：第２期戦略（素案）について（資料２・別添資料１・２）

《会長》
　それでは、続いて議案第２号の「生物多様性のだ戦略の素案について」、事務局より説明をお願いする。

《事務局：野島係長》
　資料２及び別添資料１・２を使用し、第２期戦略（素案）及びその具体施策について説明

《委員》
　施策が少しずつ関連しているので、その関連性が分かるように工夫して示せると良いのではないか。たくさんの内容が盛り込まれているので、それぞれが独立しているように示すよりも関連性が分かると良いのではないか。

《会長》
　役所の仕事を進める上での予算があって、個別に記載されているものを、どう連携させながら進めていくのかが分かるように工夫があると良いのではないか、ということかと思うがいかがか。

《事務局：宇田川部長》
　前回の戦略からの改善として、今回の組み立て方として、今やっている施策を整理するとともに、新規の取組を盛り込んだ。今後も毎年検証会議をしながら個々の施策は見直す必要があると考えている。

《会長》
　長所と短所があり、きっちり重複がないようにすると隙間が出てくるもの。多少重なった状態でスタートし、成果として重なった部分も含めて受け止めていくところからスタートかと考える。

《委員》
　45 施策の関連性が分かるように示した方が良いということだが、行政の場合、担当課がはっきりしないと自らの課の担当が認識されないので、担当課が明記されていることは重要なことだと思う。

《委員》
　自分は 45 の施策の示し方は明快で良いと思う。市民の方が良く分かるように、ということであれば、目的、対象別に表記されていると良い。多少の重複は仕方ないと考える。

《委員》
　他自治体のお手本になる戦略だと思う。他の自治体にも広げて活用していただけるようになるのではないか。

《委員》
　資料７ページに固有の企業名が入っているので「関連企業」くらいの表現の方が良いのではないか。

《事務局：宇田川部長》
公開に向けた配慮として検討させていただきたい。

《委員》
２−２の特定外来生物の項目に具体種の記載があるが、今後対象種が増えることもあると思うので、含みを持たせてはどうか。また、我孫子市では手賀沼賞を制定している。野田市でも自然賞的なものを、夏休みの宿題でピックアップしてあげられると子どもたちの興味・関心に繋がるのではないか。以前、提案させていただいていたが、今回の資料で読み取れなかったので改めて提案させていただいた。

《事務局：野島係長》
頂いていた御意見は、７−３の施策に反映させていただいている。記載の不足等あれば御意見頂きたい。

《委員》
柳沢小の先生に伺いたいが、理科展は今もやっているか？

《委員》
学校では、理科科学工夫作品展を毎年夏季休業中に募集している。その中で「科学工夫論文」という項目があるが、これは理科的なものばかり。だが、子どもたちが実際に調べたい・やりたいものは、社会科や他の教科の観点だったりする。そこで、柳沢小では、昨年度から「校長を唸らせたら表彰します」ということを始めたら２年で約３倍に応募が増えた。そのうち３割が市民の森について触れている。そういうところで表彰制度は面白いと思うが、実施するのであれば、学校への周知と理科学展との区別が必要だと感じる。

《委員》
昔、娘が科学展に応募して入賞したことがあるが、他の応募作品を見たら生きものの調査に係るものが少なかったので、増やせると良いかなと、思い出して発言させていただいた。

《事務局：宇田川部長》
教育委員会とも相談をしている。現場の先生の意見を伺いながら、子どもたちに作品などを出してもらって興味を持ってもらう制度として企画を検討したいと考えている。

《委員》
前回、意見を言った「まもる」ということで意見を述べたが、「大切にする」ということで納得した。また、市の担当課間で情報を共有し、徹底して管理してほしい。何事も早く情報が分かっていれば、スムーズに動けるはず。
もう一点、ボランティアの育成のことだが、御説明があったのは野田市全体で一つの組織ということだと思うが、五駄沼では、地主会として動いていたりする。特定の地域に対する組織というのが、一番行動しやすいと思う。地元のことは地元の人が一番よく分かるし、動いてくれる。全体の組織としてはありながら、実際の実働部隊は地域単位が良いと思う。

《会長》
市としていかがか。

《事務局：宇田川部長》
市として横の連携が悪いのは実感している。どうしても縦割り行政で情報が横に流れないのが今の問題で、森林の伐採、太陽光パネルでも同様。その意味でも施策ごとに担当部署を明確にし、みんなで集まる検証会議でしっかり情報共有し協議していきたい。また、今までで皆さんから挙げられてきた課題の中で一番課題だったのがボランティアの育成だった。皆さんが活躍しているうちに次の世代を育てていけたらと考えている。庁内調整については自分からも伝えたいと思うし、市民会議からの意見として、直接伝えることが一番良いかと考えている。

《委員》
みどりと生きもののサポーター制度に共感する。ただ、もう少し緩やかなものがあっても良いかと思う。新しい事業を進める上では、10 年後 15 年後を考えなければいけない。今の子どもたちが大人になる準備しておいた方が良い。緩やかな生きものサポーターがあると、学校も関りやすくなり、子どもたちも環境に興味を持ちやすくなると思う。戦略では学校が関わる素地が示されているので、横断的に関わっていくことになると思う。学校が選択して横断的に参加していくことが、結果的に広がっていくと思うので、緩やかなサポーター制度について御検討をいただきたい。

《事務局：野島係長》
未来の子どもに自然を残したいというのが戦略の根幹にあるので、子供たちが取り組みやすい緩やかな制度というものも考えていきたい。

《委員》
今後の取組ということで考えていただきたいが、絶滅危惧種とあっても国と県の希少種ではレベルでは違うので、その辺に配慮してほしい。また、冬みず田んぼとあるが、田んぼ雑草にも希少種が多いので、そういったことにも配慮していただきたい。

《委員》
別添資料２－２の具体的な取組に、野田自然同好会が抜けているので追記してほしい。また、サポーター制度を考えるに当たっては、野田市内の全ての関連団体を優先的にサポーターにすると良いと思う。育成講座については、NACS-J で合宿して自然観察指導員になる仕組みがあるので、そういう仕組みを活用してはどうか。自分が指導員になった時は宿泊しての受講に当時で３万５千円くらいを払って参加した。無料では駄目だと思う。必ず有料で受講してもらって認定することが大切。また、若い人を対象にするなど年齢制限もした方が良いと思う。
コウノトリ・ボランティアの会があるが、コウノトリの話だけするのではもったいない。江川地区を一周するコースを設定して、来た人に参加してもらえると良い。今回の自然環境調査に協力した調査員もボランティアで活用しないともったいない。マナーについても観察会の現場で学べるようにするのが良い。
また、野田の農業の振興ということで、観光マップなどで梨のもぎとりなど載せられると良いのではないか。

《事務局：宇田川部長》
　梨農園はあるが、観光農園はやっていないということで団体から掲載を断られている。

《会長》
　岡田委員から言っていただいたことはとても大切なことだと思う。「まもる」というときに市がサポートしながら組織的に進めていくか、というときに、調査をして進めていくということも大切だが、自然のお世話をしていくということが大切。小さいことからやっていくことで、慈しみの気持ちが芽生えると思う。一人があちこちに行くのではなく、地元を我がこととしてお世話していくということが、野田に既に芽生えている。制度化を作っていくということも大切だが、柳沢小で市民の森のお世話をして、それが他校に広がっていく、というのが自然な形だと改めて思った。野田には既にその動きがある。既に育っている小さな芽を、育てる支援をするための戦略であると伝えたい。小学校の子供たちが学校の周りの自然に親しみながらお世話をしていき、地主さんとつながりができるなど、地元に核ができていくことが期待できるのではないか。
　広域連携という意味で、他地域のお手本になるという話も出たが、野田市の職員の方が生物多様性の取組を、コウノトリをシンボルとしてつなげていることも目の当たりにしている。そういう意味でそこをボランティア制度で担保していただいたと考えている。ボランティア制度も他のところのものをもってくるのではなく、既に芽生えているものを育てていくというところで、仕組みづくりを少し工夫していただけると良いのではないか。

《委員》
　現場で学ぶ機会を多くつくっていただけたらと思う。特に若い親子、小学生などに目を向け、市全体として気持ちを高めていただけたらと思う。

《会長》
　それでは、この戦略（素案）の内容について、承認いただきたいということですが、よろしいか。

（異議なし）

《会長》
　理科大が傍にあることも野田市の強みだと思う。理科大の学生にも活躍してほしい。また、戦略でまとめていただいたことは、私自身の活動の指針になると思っている。

《事務局：宇田川部長》
　資料２　戦略（素案）の「第４章　第２期戦略の推進体制と今後の進め方」について訂正事項も含めて補足説明を行った。

４　その他（今後のスケジュールについて：資料３）

《事務局：野島係長》
　資料３を使用し、第９回市民会議での意見を踏まえて「戦略（素案)」を修正し、長谷川会長に確認いただいた上で、パブリック・コメントに諮り、その上で次回の市民会議を開催したい旨を説明。

《会長》
　今後の進め方について、パブリック・コメントに諮る前の最終確認は会長に一任いただくということで、よろしいか。

（異議なし）

《会長》
　研究を進めるにしても計画づくりに力を入れるが、どう人の心に寄り添ってマネジメントしていくのかというところが大事だということを、市民会議を通じて改めて感じた。どうマネジメントしていくかの指針としての戦略と受け止めていただければと思う。長時間にわたったが、貴重な御意見を頂き感謝申し上げる。

５　閉会

《事務局：宇田川部長》
　本日の会議の中で素案がまとまりましたので、今後市民の皆さんからパブリック・コメントで意見を頂いて、次回の市民会議で御検討いただいて完成としたいと考えている。種まきは人づくりだなと本日改めて感じた。人づくり、特に子どもたちの環境学習を大切にしながら、また活動をしている方々のお知恵をお借りしながら戦略を進めてまいりたいので、引き続き御協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。

《事務局：池澤課長》
　以上をもって第９回野田市生物多様性のだ戦略市民会議を閉会とする。